受験番号＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

2020 年度 一橋大学大学院　言語社会研究科博士前期課程（修士課程）

秋季入学試験問題

第一部門

論　文　問　題

- 試験開始の合図があるまでこの問題冊子を開いてはいけない。以下の注意事項をよく読むこと。
- 一般受験者、外国人留学生受験者、社会人受験者ともに、（1）論文問題 A 群の出題に、問題文に記されている指示に従って解答し、さらに（2）B 群（01～13）に出題されている問題から 1 問を選んで解答しなさい。
- 「論文問題 A 群」「論文問題 B 群」につき、それぞれ別の用紙を用いて解答すること。
- 論文問題 A 群への解答に際しては、問題文に記されている指示に従って、問いの番号（問い1、問い2、問い3）を「科目欄」の問題番号記入欄に記し、論述に使用する語群①②からそれぞれ 2 つずつ選んだキイワードを、解答の前の一行目に記すこと。
  （例：語群 ① ＝××、□□、語群 ② ＝○○、▲▲）
- 論文問題 B 群への解答に際しては、解答用紙の科目欄に、選択した問題番号を記入すること（例:B01、B04 など）。
- 解答に際して用紙 1 枚では不足の場合、試験監督員に申し出て追加配布を受けること。
- 本冊子は持ち帰ってはいけない。上部の受験番号欄に必ず受験番号を記入しなさい。

A 群

次の語群①②から、それぞれ単語を2つずつ選び、それら4つの単語すべてを論旨と密接にかかわるキイワードとして用い、下の問い1～3のいずれかに答えなさい。

解答に際しては、どの問いと単語を選択したか、問題冊子表紙の指示に従って記すこと。

語 群 ①

安らぎ　峠　指紋　低気圧　電車

和室　酔っぱらい　クジラ　水平線　冬眠

語 群 ②

誘惑　辞書　抵抗　変形　神話

災害　個人　投資　戦争　生産性

問い1　「真実である」とはどういうことか、論じなさい。

問い2　「想像力」とは何か、論じなさい。

問い3　「別れ」とは何か、論じなさい。

B 群

01　近代以降の文学において、ユートピアを構想することは可能か。あるいは、ユートピアは必然的にディストピアになるのか。具体的な文学作品に即して議論しなさい。

02　日本近代文学と通俗性の関係について、具体的に述べなさい。

03　文化財や文化資源を保存しながら、活用を図るという政策は矛盾をはらんでいる。こうした相反する方向性はどのように折り合いをつけられるのだろうか。あるいは現実的な解決策など存在しないのだろうか。具体的な事例を挙げながら、あなたの見解を述べなさい。

04　近代日本における学問の形成に際して日本語以外の言語があたえた影響について、具体的な学問領域をあげて論じなさい。

05　伝統が作り出されたと見なしうる音（楽）文化の事例を１つ挙げ、「伝統」「創出」の両面を明らかにしつつ、その魅力について論じなさい。

06　声を成立させている要素をふまえて、その要素が芸（芸術）や宗教でどのように表現されているかを述べなさい。

07　ヘイドン・ホワイトは、文学的テクストと歴史的コンテクストのあいだの関係を説明するモデルとして、社会主義リアリズム風の「反映論」モデルと、エーリヒ・アウエルバッハの「比喩（フィグーラ）主義のモデル」を対置したうえで、後者を以下のように説明する。

[redacted]（「アウエルバッハの文学史－比喩的因果関係とモダニズム的歴史主義」）。

以上を参考にして、「文学的テクストと歴史的コンテクストのあいだの関係」をめぐるあなた自身の考え方を、具体的な文学的テクスト／歴史的コンテクストを例にとりつつ説明しなさい。

08　文学研究において、作家や作品を歴史的に研究するとはどういうことか。その必要性、得失に言及しながら、中国・台湾文学の具体的な例に即して論じなさい。

09　ドイツ語圏の文学・思想などの任意の言語作品（複数可）を取り上げ、その作品が、その作品を受容すべき人々とのどのような関係性において成立しているか、なるべく具体的に論じなさい。

10　ある文学作品がフィクションだと判断されるときに、その判断の基準となる事柄を少なくとも３つ挙げ、それぞれについて、任意の作品（複数可）を参照しつつ、なるべく具体的に論じなさい。

11　国民語の形成における翻訳の役割について述べなさい。

12　以下の３つの金言からひとつを選び、思うところを述べなさい。

①　受容せらるるものは、受容するものの方法にしたがって受容せらるるものなり。

②　およそ人間に関わるものごとのうち、私に関わりのないものは何ひとつない。

③　世界を統べるものは、秩序ではなく、ごった煮である。

13　以下の文章を、なるべく詳細に批判し、修正し、添削しなさい。できる限り文中の文言に即して指摘すべき不備を可能な限り余さず指摘すること。

古代ローマの人々が「パンと見世物」を求めて暴動を起こしたことからもわかるように、はるか昔から芸術の価値は広く認められるところでした。人はパンのみにて生きるものにあらず、というキリストの言葉を鑑みても、芸術が無ければ人生がいかに殺伐としたものに成るか、誰もが知っていたことがわかります。私たちはみな、芸術を必要としているのです。自分には芸術はワカラナイと言う人がよくいますが、ワカル必要はありません。しみじみと心で感じればそれでいいのです。なぜなら、芸術は、ただ見たり聴いたりして楽しみ消費するだけの娯楽とは違って、精神が高揚され人間性が豊かになる役割を担わわされている物だからです。